

中学校におけるメディアを活用したキャリア教育の実践事例の分析

藤田 淑恵

文部科学省の「キャリア教育の手引き」によれば、キャリア教育とは、「児童生徒一人一人のキャリア教育発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度を育てる教育」と定義される。キャリア教育のこれまでの実践・先行研究では、キャリア教育にメディアを活用することで「生徒の授業への理解が深まる」といった報告が見られ、キャリア教育にメディアを活用していく必要がある。本研究では、中学校の各教科担当教員、進路指導担当教員、スクールカウンセラーを対象として、メディアを活用したキャリア教育について以下の点を検討した。

本研究の目的は、キャリア教育の学校全体での実施体制を明らかにする（目的 1）、メディアを活用したキャリア教育における授業の全体傾向を講義型、演習型の授業に分けて検討する（目的 2）、目的 2 のうち、特に工夫した授業の特徴を講義型、演習型の授業に分けて検討する（目的 3）、スクールカウンセラーによる生徒の将来に対する悩みに対して、メディアを活用したカウンセリングや用いたメディアの内容について明らかにする（目的 4）の 4 点である。授業は、特に職業に関する知識身につける授業を講義型、生徒自身が活動を通して学ぶ授業を演習型に区別して検討を行った。この目的を検討するために、3 つの調査を行った。

本研究の分析対象者は、質問紙調査において回答が得られた中学校 13 校（各教科担当教員 12 校 33 名、進路指導担当教員 12 校 18 名、スクールカウンセラー 11 校 11 名）であった。主な結果は、次の 4 点である。

1. 目的 1 については、キャリア教育の実施体制は学校全体としてで、教科ごとでは実施体制が敷かれていなかった。また、学校ごとに学年ごとの目標を定め、目標は文部科学省のキャリア教育の手引きにある発達段階に即した目標であることが示された。
2. 目的 2 については、科目別でのキャリア教育の実施は総合的な学習の時間で最も多かった。総合的な学習の時間における特に工夫した授業の特徴では、映像メディアが、講義型での「自己理解・自己管理能力」を重視する学校に多く用いられていることが示された。
3. 目的 3 については、キャリア教育におけるメディアの活用として、特に演習型の授業にインターネット、図書を活用することにより、キャリア教育として生徒の関心・意欲の向上への教育的効果が高まることが示された。
4. 目的 4 については、カウンセリングにおいてメディアの使用はほとんど見られなかったが、使用されている場合には、メディアは具体的な情報を伝えるために使用していることが示された。

今後の課題としては、実践例をさらに収集し、キャリア教育の教育的効果を高めるメディアの内容について検討することが必要である。

（指導教員 鈴木佳苗）